

令和元年度 第2回博物館協議会（web 用）

日 時	令和元年7月23日（火）午後1時30分	
場 所	安城市歴史博物館2階講座室	
出席委員	高山 忠士	会長
	加藤りせ子	副会長
	鈴木 健吾	委員
	荒井 信貴	委員
	市川とし子	委員
	永谷 史朗	委員
	近藤 芳永	生涯学習部長
	近藤 一博	文化振興課長
	片岡 晃	安城市歴史博物館館長
	伊藤 基之	学芸係長
	三島 一信	専門主査
	石川 貴信	主査
	田中 里張	主査
事 務 局	野上真由美	主査
	坂本 晃基	主事
	石川 明良	指定管理者
		安祥文化のさと地域運営共同体
		代表企業西三河エリアワン取締役部長
	山口淳一郎	指定管理者
		安祥文化のさと地域運営共同体総括
	早川 博貴	指定管理者
		安祥文化のさと地域采井共同体副総括

閉 会 午後2時50分

<市民憲章昭和>

事務局	皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、定刻までにお集まりいただきまして、ありがとうございます。 それでは、協議会の開催に先立ちまして、安城市民憲章の唱和を行いますので、委員の皆様のご起立をお願いいたします。 （市民憲章唱和） ありがとうございました。ご着席ください。
-----	--

<開会のことば>

事務局	ただいまから、博物館協議会を開催いたします。
-----	------------------------

<あいさつ>

事務局	それでは「2 あいさつ」に移ります。会長よりご挨拶をいただきます。会長、よろしくお願いします。
会長	(あいさつ) 長い曇り空が続き、久しぶりに太陽が見られたと思えば酷暑となりました。大変暑い中お集まりいただき、ありがとうございます。 先週青森に参りまして、帰りの飛行機まで時間がありましたので、青函連絡船のメモリアルシップである八甲田丸を見てまいりました。八甲田丸を記念としてそのまま残しているわけですが、その中に昭和30年代の青森の街の様子を表したジオラマ風の展示がありました。 物でもって時代を語らしめる、非常に興味深い展示でした。リンゴやお土産の竹籠を売る風景などが生き生きと再現されており、ついつい時間を過ごしてしまいました。ただ資料を並べるのではなく、立体的に再現した、このような展示は大変良いと思いました。博物館の展示にも参考になるかと思います。 足を延ばしますと時々そのような面白い展示に巡り合います。この博物館の展示もより良いものになるよう、今後とも委員の皆様のお力添えをいただきたいと思います。

<協議事項>

事務局	それでは「3 協議事項」に移ります。議事の取り回しについては、「安城市歴史博物館の管理及び運営に関する規則」第19条の3に「会長は、会務を総理し、会議の議長を務める」となっておりますので、会長をお願いします。
会長	それでは協議事項に入ります。「(1) 令和元年度開催済事業報告」について、事務局からの説明をお願いします。

<(1) 令和元年度開催済事業報告>

事務局	(説明) * 指定管理者担当部分は指定管理者が説明
会長	事務局の説明が終わりました。質問等がございましたらお願いします。
A委員	上映会の鑑賞者に対する展示会場への導線が課題とのことでしたが、例えば、上映する映画の内容と展示の内容をリンクさせるということ

	は1つ考えられると思います。映画のタイトルの選定はどのように行っているのですか。
指定管理者	こちらは歴史博物館ということで、歴史ある映画の名作、という基準でスタンダードな作品を選んでいきます。各展示に直接リンク、というのはできておらず、今後は行っていければと考えていますが、それだけにこだわってしまうと集客のこともあり、難しいのが現状です。
A委員	確かに完全にリンクするのは難しいと思いますが、一般市民としては、3回のうち1回くらいは考えても良いと思います。
指定管理者	上映会の在り方も含めて、是非今後の参考にさせていただきます。
指定管理者	いくら名作であっても、ギャンブルなど当館に相応しくない内容のものを除いていった結果、今のラインナップに繋がっています。客層としては70～80代の方が多く、お話を聞いたところ、半分以上は安城市民で、はじめて来館した、という方もいらっしゃいました。映画を契機として館に足を運んでいただく、というのはある程度成功していると感じています。ただ、この3年で当館に相応しいラインナップがほぼ出つくしてしまいました。ですので、来年以降は新たな作品の開拓と同時に、過去に評判が良かったものを展開していく予定です。
B委員	見学学習で来館する小中学校に企画展見学を積極的に働きかけたのですが、小学校では4年生の総合学習で消防について学びます。見学学習は6年生ですので、見学学習とは別に4年生に観覧の働きかけをしてもよかったのではないですか。
C委員	小学校では6年生で歴史を学習します。ですので、こちらで古代から現代までの流れを、展示資料を見ながら学ぶようにしています。 B委員の指摘通り、消防は4年生で学び、近くの消防署見学などしています。時期があれば博物館の見学、ということもできたのですが、学校には年間行事もあり、また予算や安全面の配慮も必要なので、博物館から遠い学校は、なかなか難しいのが現状です。南部小学校など近い学校は4年生も含めて来館しています。また時期があれば、学校としても協力していきたいと思います。
C委員	上映会について、ひと通り出尽くしたのですが、必ずしも新しいものに次々と変えていく必要はないと思います。鎧の試着会は大変評判がよく、毎年開催しているということですが、あそこに行けば、

	これが出来る、というのは口コミで広がっていきます。そうすると今年には行けなかったけれど来年は、と考える人もいると思います。必ずしもすべて新しいもの、というのではなく、この時期にやっていたほうが良い、というものは是非残してほしい。その中で集客が見込めないものを差し替えるなどの工夫はすでにやっておられると思いますが、それらを上手にミックスしていくと良いと思います。あとは上手に宣伝していくことが必要かな、と思います。
D 委員	感想になりますが、企画展「安城の今昔 1 火消しまいる」はよく入った、というのが正直なところですよ。近年こちらで行っている、収蔵品を中心として、それを少し膨らませる、という展覧会で 5,000～6,000 人、さらに入館者数が増えてきている、というのは、すごい。収蔵品を「昔の暮らし」のようにベタッと並べるところは多いのですが、こちらはテーマ性を区切って 1 点 1 点をしっかり印象付けながら展示できている、それが数字に繋がっているのかな、と思います。こういった展示で 6,000 人以上はなかなか入ってくれません。学校とのリンクもよく出来ていると思います。 驚いたのは、ウォーキングで大人 685 人・小学生 83 人が企画展を観覧したということです。これだけ入ったというのはすごいと思います。ウォーキングの参加者は健康重視の人が大半なので、チェックポイントにこういった施設があっても、なかなか入館はしてくれない。いかに入ってもらうか、というのが結構至難の業なのですが、それをこの数の人たちが入ったというのは、展覧会のテーマ設定とか展示への誘導を熱心にやられた結果なのかな、と思います。普通収蔵品展では 5,000 人なんて到底無理で、3,000 人いけば良いくらい。やはりここまでテーマ性を持ってしっかりやることでこの数字が出てきている、非常に良いことなのだろうと思います。近年は食文化から相撲・芝居、火消し、というかたちで安城の人にとって身近なテーマで、順に見ていけば安城の昔のことがよくわかる、という形になっています。このシリーズは大事にして、これからも是非続けていってほしいと思います。
会長	中京大学との連携講座について、私も聴講させていただきましたが、講師が国文の先生で、普段博物館では聞けない視点での話が聞けて面白かったと思います。ただ、なかなかテーマも含めて決めていくのは大変かと想像しています。今後の予定はどのようにお考えでしょう

	か。
事務局	中京大学との連携講座はこれで3年目になりますが、博物館が先生たちに内容を指定しているわけではなく、先生方がこちらの意を汲み取ってよく考えてくれています。ただ先生方は文学部で歴史と国文、言語系の各分野で6人ずつ、18人くらいかと思いますが、一回りまわったところで次はどうなるか、というところです。
会長	大学との連携講座を継続的に行っているところはあまりないと思います。
事務局	1回限りの講演会等で終わることも他市町村では多いですが、当館では本講座のほか松平シンポジウムなどもあり、年間4～5回はやりとりしています。逆にこちらでも大学の博物館関係の講義や講座等で所蔵資料を提供しています。それもあって、大学も当館の講座内容においては、こちらのことをよく考えてくれています。
会長	大変だとは思いますが、是非続けてほしいと思います。
会長	他によろしいですか。無いようですので、次に移ります。 「（２）令和元年度事業計画（案）」について、事務局からの説明をお願いします。

<（２）令和2年度事業計画（案）>

事務局	（説明）
会長	事務局の説明が終わりました。質問等がございましたらお願いします。
D委員	是非とも戦国松平展はしっかりやってほしい。安城はこれまでも松平家に関する展覧会を緻密にやってこられています。その積み重ねの上でさらに広げてみせてもらえる、ということであれば、本当に良い展覧会になると思います。実は岡崎でも松平に関する展覧会を、という話が出てきていますが、これまでの積み重ねを考えると安城のほうが先だろうと思います。市民ギャラリーも使う、とのことですが、是非とも大きな展覧会にしてもらいたいと思います。
D委員	江戸の遊び絵尽くしは、タイトルはこれで決定なのですか。
事務局	まだ仮題です。

D委員	これまでも安城では企画展で遊びのシリーズを開催しています。それと近年取り上げている若冲や広重といった近世絵画をうまく組み合わせると、幅が広がる展覧会になると思います。ただ、「遊び絵尽くし」というとイメージが湧きにくいので、サブタイトルを工夫して、今までの近世絵画ファンをつかみながら、「遊び絵」というところで子どもたちも引き込めると、観覧者の幅を広げられるかな、という気がします。 どういう客層をメインターゲットにするかは大事なことになるので、それを考えてタイトルを工夫されると良いと思います。
会長	「江戸の遊び絵尽くし」はミュージアムショップにかなり腕の振るいがいがあると期待しているのですが、どうですか。
指定管理者	まだ具体的に決まっていないのですが、関連書籍だけでもかなり有りそうです。関連業者から色々と情報を収集して、当館のオリジナリティを出せるものをピックアップできれば良いと考えています。
会長	ふたつある「終戦75周年」の展示ですが、説明を聞く限りでは、内容はかなり違ったものになりそうです。タイトルはどちらも「終戦75周年」なのですか。
事務局	「終戦75周年」は冠です。このあとにタイトル、サブタイトルがきます。タイトルはもうそろそろ決まってくるかな、というところです。確かにタイトルは大事です。タイトルが明快な展覧会はやはり来館者が多い。それを踏まえて考えたいと思います。
会長	もう1点、終戦75周年展では県外からも資料を借りるとのことですが、市内にも軍需工場として使われた工場で今も残っているところがあります。建物は企業のもので、可能かどうかは分かりませんが、関連行事で見学などができると良いと思います。検討していただけたらと思います。
会長	他によろしいですか。無いようですので、次に移ります。「(3) 今後の展示計画について」について、事務局からの説明をお願いします。

< (3) 今後の展示計画について >

事務局	(説明)
-----	------

C委員	先日館内を見学したのですが、常設展示室を含め、解説パネルで読めないものが多いと感じました。ルビがなくて読めなかったり、解説パネルの位置が遠かったりなど、様々です。ルビの振り方も不統一で、現代に行くほどルビがよくふられているように思います。 また、来年度戦国松平展を予定しているということですが、先日市の発展祭でも安城松平に関する講演があり、安城松平について認識を新たにしたのですが、常設展示室でそれを感じることはできませんでした。スペースも狭く、安城松平氏の背景等の説明も少ないように思います。新美南吉コーナーでも職員の写真が展示されていても、誰が南吉なのかわからない。そういった点で説明不足であるように感じます。 さらに、安城市歴史博物館の目玉は何か、というのが見えてきません。1つでも良いので、安城に行けばこれが見られる、というものを積極的にアピールするべきではないかと思います。それが雑誌などに掲載されていると、行ってみたいと思うものです。そういったルートを使って宣伝などされると良いと思います。
A委員	平成 24 年まで行われていたミュージアム・スポットというのは、規模としてはどのくらいの展示ですか。
事務局	現在の展示室を半分くらいに仕切ったスペースを使っており、内容は資料紹介のようなものです。
A委員	これまでに多くの優れた企画をされてこられていますが、1つ1つの企画が大きくなればなるほど担当者の労力も大きくなると思います。 一方で、これから半年ほど休館になると、収蔵品の整理などを進めていかれると思います。日本の博物館では、収蔵品があまり日の目をみない傾向があります。資料の収集は今後も続けていかれると思うので、小規模でも少しずつ展示する場があっても良いと思います。大きな企画ではなく、学芸員が定例的に行っている収蔵品の整理の中で、今月はこんな面白い資料があったよ、と紹介すると、市民に、生きた活動として収蔵品を扱っているというのが見えて良いかと思います。

事務局	常設展示のリニューアルについて内部で考えていた時、常設展示の柱として4項目を挙げていました。人面文・真宗・安城松平・日本デンマークです。現在のような通史的なものではなく、先ほどC委員が言われた、「安城に来ればこれが見られる」というものを柱にしたものです。インターネット上でアンケートを取った結果、意外と日本デンマークを押す市民が多く、安城として大事にしていくべきものであることを再認識しました。そのリニューアル案のなかで、常設展示の中でフレキシブルに資料紹介もできる部分を作るという案もあって、まさにリニューアルに向けてのご提言をいただけたと考えています。
D委員	名古屋市博物館や愛知県美術館でも学芸員のおススメ逸品のような展示を行っていますが、あれも学芸員の顔が見えて、学芸員の活動を市民が知ることができます。今後は市民との距離を少しでも縮めることを考えていかれると良いと思います。
D委員	企画展についてですが、以前から比較すると、ここ5年くらいでやっと3万人を超えてきています。博物館も公的機関として行政評価など色々な評価を受けることになります。そうしたなかでの博物館活動はなかなか難しいと思います。しかし安城は、本当に昔から安城に根差した地道な展覧会を随分やってこられた。これは本当に尊敬に値すると思います。ただ、それだけでは先はないと考え、最近は浮世絵や若冲などの展覧会をやることで多少集客を考えるようになりました。集客を考えるのは決して悪いことではありません。今まで来なかった客層にいかに足を運ばせるか、そういったことを念頭に置いた展覧会を考える必要があると思います。初めて来館した人に、こんな活動をやっているんだ、と知ってもらうことは必要です。ただ、集客だけを考えていてもいけない、地道なことだけをやっていてもいけない。そのバランス感覚を持ちながら企画を考えていくと良いと思います。イベントも恒常的に行うことで、子どもを博物館につれていけば良い、と考えるお母さんが出てきてもよいわけです。博物館は多様な人を受け入れる準備だけは絶えずしていくことが大切です。このところやっと来館者が増えてきたのは、館員の努力の結果だと思います。

会長	周年になるかわかりませんが、「日本デンマーク」という言葉が出て100 年くらいではないでしょうか。やはり「日本デンマーク」は全国ブランドであり、安城としては柱の1つだと思います。しばらく扱っていないこともあり、もう1度「日本デンマーク」にスポットを当ててみても良いと思います。安城の町の発展はやはり近代に始まるわけですから。
事務局	「日本デンマーク」展は平成9年に行ったきりですし、その間には市史の編纂があり、新しい成果もありましたので、再度展覧会を行いたいという気持ちはあります。ただ、物で語らせるのが難しいテーマでもあります。古い写真からレプリカを制作することなども必要かと思っていますので、じっくりと準備を進めたいと考えています。
B委員	令和5年は愛知電鉄開通100年の年ですが、電車が全国に行きわたるなかで、その背景や関連施設なども含めてわかると面白いと思います。また、安城では早くから安城裁縫女学校や安城農林高校などの学校が出来ており、学校が果たした役割についても興味深いです。
会長	他によろしいでしょうか。ないようですので、協議事項はこれで終了いたします。事務局にお返しします。

<その他>

事務局	慎重審議、どうもありがとうございました。 「4 その他」に移ります。事務局から説明をいたします。 (改修工事について進捗状況を説明)
D委員	エントランスホールはこれまでコンサート等に使用していますが、残響が変化するなど、影響はないのでしょうか。
事務局	幕天井になる分、多少響きが抑えられるかもしれませんが、コンサート自体、博物館にあまり縁のない人に来てもらうために行っていたもので、もともとコンサートを前提とした造りにはなっていません。 今回の改修工事も建築基準法上不適格である部分を直すことが優先であり、それに対して博物館側がその構造について希望は出していません。
事務局	(合同研修会について説明) (第3回博物館協議会について説明)

<閉会のことば>

事務局	以上を持ちまして全ての予定が終了しました。最後に委員の皆様から何かございませんでしょうか。
事務局	無いようですので、閉会のことばを生涯学習部長から申し上げます。
生涯学習 部長	長時間にわたり色々なご意見をいただき、ありがとうございました。 開館 30 年を目前にして、今回、本協議会が設置されてから初めて展示企画について、検証とまではいきませんが、これからの博物館についてヒントをいただけたら、という趣旨でご意見をいただく場を設けさせていただきました。今回いただいた貴重なご意見を参考に、市民が身近に感じられる博物館をめざしたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。
事務局	ありがとうございました。この後、開催中の特別展「1964－東京五輪がもたらしたもの－」をご案内いたします。お時間の許される委員の方は企画展示室前にお集まりください。